

# V 關係資料

## 1 運営指導委員会

### <運営指導委員会委員>

氏名	所属・職
石田 浩二	山北町教育委員会 教育長
羽入田 眞一	早稲田大学教育・総合科学学術院教職大学院 客員教授
小村 俊平	岡山大学 学長特別補佐 ベネッセ教育総合研究所 主席研究員

### 【令和2年度第1回運営指導委員会】(記録)

(1) 日時

令和2年7月21日(火) 13時15分～15時15分

(2) 場所

山北高等学校第一応接室

(3) 出席者

・ 運営指導委員

石田浩二、羽入田眞一、小村俊平

・ 山北高校

藤田正樹、吉野雅史、内藤哲也、大川真弓、小関秀寿、野秋貴浩、山内未来、志村美登里

・ 神奈川県教育委員会

川端麻穂、川上敬子

(4) 報告・協議事項

○ 令和元年度の成果について

・ コンソーシアムの構築

・ 先進校視察により他校の実践例を参考にし、教員の知見を広げた。

・ 教材開発…1学年が分担して教材開発にあたった。1学期はSDGsについて、2学期以降は「山北町」「未病」「地域防災」について学習した。学習方法としては調べてまとめて発表した。(新しい指導方法が確立されたわけではない)

○ 令和2年度研究開発実施計画について

・ 1学年…「知る」を目標に授業を実施。2学期以降は、「山北町」「未病」「地域防災」をオムニバス形式で行う。→教員の専門性を高め、オムニバス形式による授業成果は年度末に報告予定。

・ 2学年…「探る」を目標に授業を実施。小さなグループ毎に山北町に係る探究を行っている。コロナ禍でもグループ学習を工夫して導入している。

○ 学校運営協議会について

・ 委員選出について

・ 各部会構成について

○ コンソーシアムについて

・ 加盟団体について報告した。

- ・ コンソーシアム連絡協議会の今後の予定を連絡した。
- 感染予防を念頭においた事業展開について
  - ・ 「classi」「探究のキセキ」のパンフレットを中学校で配付する。
  - ・ 全体を集めての学校説明会はできない。
  - ・ 普通科新設について情報提供した。
- (5) 指導・助言
  - 委員の方より
    - ・ 生徒が学校運営に関わる時代になってきている。「地元への興味・関心及び探究的学びに関するアンケート調査」の設問項目（資料 p. 50）で高校生が答えやすい問いにしてみてもどうか。「地域人材育成学校」を前面に打ち出してみてもどうか。
    - ・ 「地元への興味・関心及び探究的学びに関するアンケート調査」で生徒が3年間でどのように変わるのかを見ていくのが大切であり、1年毎で一喜一憂しなくてもよい。
    - ・ 生徒が意思決定をする機会を増やしてみてもどうか。「地元への興味・関心及び探究的学びに関するアンケート調査」の数値は気にしなくても良いが、他校との比較は大切である。「アンケート」で自由記述欄を作ってもどうか。
- (6) 事務連絡
  - ・ 次回の運営指導委員会は11月頃を予定

### 【令和2年度第2回運営指導委員会】（記録）

- (1) 日時
  - 令和3年3月12日（火）14:00～16:00
- (2) 場所
  - 山北高等学校連携推進室
- (3) 出席者
  - ・ 運営指導委員
    - 石田浩二、羽入田眞一、小村俊平
  - ・ 山北高校
    - 藤田正樹、吉野雅史、内藤哲也、大川真弓、野秋貴浩、山内未来、宮本翼、水島拓也、志村美登里
  - ・ 神奈川県教育委員会
    - 川端麻穂
- (4) 報告・協議事項 今年度探究活動の成果及び課題の報告
  - 「山北高等学校を中心に、行政・町民・企業が一体となる」ことについて
    - ・ 地域の子供たちを対象としたイベントを開催することができた。
    - ・ 生徒への「地元への興味・関心及び探究的学びに関する意識調査」アンケート調査では概ね良い評価を得ることができた。
    - ・ フィールドワークが少ない中で、教員がどのように生徒をファシリテートしていくか。
    - ・ フィールドワークにおける資金をどのように工面していくか。
  - 「『未病』、『地域防災』の2つの視点で、PBLを活用した『個人の成長』を求めるカリキュラムの開発研究」について

- ・ 生徒の多角的な視点を身に付けられた。
  - ・ 1年時の総合的な探究の時間にて向き合った地域課題について学習を深めることができた。
  - ・ 教員全体としては、ファシリテート能力は向上しているものの、指導において、まだ不十分な部分もある。
  - ・ 外部との連絡調整・役割分担等が円滑に進んでいない。
- 「Uターンを含めた地域で活躍し、地域を創生する人材の育成」について
- ・ 地域についての理解が深まった。
  - ・ 生徒が地域課題を自分の課題としてとらえることができるようになった。
  - ・ 「地域を創生する人材の育成」に魅力を感じて山北高校に入学したいと思ってもらうためには何ができるか。
- (5) 指導・助言

#### 委員の方より

- ・ 事業報告書の表にある「存続」という言葉選びは、生徒や保護者にネガティブな印象を与えてしまうのではないか。
- ・ 山北町会議員から、山北高校との取組について、一般質問があり、議員も山北高校に関心を示している。また、町の広報誌など学校の取組について積極的な発信が見られ、町民への理解が深まりつつある。
- ・ 中学生に「地域を創生する人材の育成」に魅力を感じてもらうために具体的にどのような取組ができるかを考えなければならない。
- ・ 多角的な視点を身に付けることができたとあるが、その具体性や、来年以降の見通しを示すことが出来ると良い。
- ・ 山北町のカレンダーに山北高校の生徒の様子を掲載することは地域の人々に山北高校を知ってもらう有効的な手段である。
- ・ 山北高校の卒業生や「山北高校を応援する会（仮称）」などを活用してもいい。
- ・ 山北高校の生徒が、卒業後どのような進路に進んでいるかを中学生、保護者に示していく必要がある。
- ・ 可能であれば、山北高校のような取組をしている他校の生徒との交流ができる機会を設けることができればよい。

## 2 山北未来コンソーシアムについて

本校が文部科学省から「地域との協働による高等学校改革推進事業（地域魅力化型）」に採択されたことをきっかけに、本校の教育活動を外部から支援して下さる機関・企業・団体等により、「山北未来コンソーシアム」を構成した。

このコンソーシアムに加わらないまま、神奈川県との関係で本校の教育活動を支援してくれている団体や、神奈川県教育委員会と協定を結んでいる山北町などからもご支援をいただいている。

ここでは、報告本文と重なる部分もあるが、

- 1 いただけてきた支援の実績（初年度分も含む）
- 2 コンソーシアム等についての課題
- 3 今後の展望

について報告する。なお、コンソーシアムの項ではあるが、協定文書を取り交わしていない相手方や地域学習実施支援員についても併せて述べる。

### (1) いただけてきた支援の実績（初年度分も含む）

#### ア 校外学習等に係る支援

##### a 1 学年対象講演会の実施（令和元年7月10日実施）

指定初年度、「地域を知る」ことをテーマに1学年の生徒対象後援会を実施した。この際にご講演いただいたのは地元蔵元の「合資会社川西酒造」「山北町生涯学習課」の方であった。川西酒造を紹介くださったのは、現在は地域協働学習実施支援員として本校を支援してくれている藤原浩氏であり、県教育委員会との協定に基づいた支援の一環としてご協力くださった。

会場の山北町生涯学習センターは、山北町が使用料全額減免としてくれた。これ以外でも、生涯学習センターの使用に当たっては、格別の便宜をいただいている。

##### b 1 学年フィールドワークに係る支援（令和元年11月11日実施）

7月に実施した講演会を受け、実際に山北町を見聞した。この際のプログラム作りと現地支援者の調整には、藤原浩氏にご助力いただいた。

##### c 知事部局の未病に係る取組に関係して（令和元年秋から翌年春まで）

県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室が、アサヒ飲料株式会社との協働で、高校生世代へME-BYOコンセプトの普及・啓発を図って、本校生を対象にワークショップを行った。ワークショップの実施により直接本校生に、成果物をもって高校生年代に普及することを目的としたものである。

この企画のキックオフには首藤副知事が来校になり、対象生徒に1時間余りご講演された。これは、アサヒ飲料株式会社からの要請によって、ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室が対応したものと聞いている。また、ワークショップを実際に指導したのはカタパルト株式会社で、同社との調整もアサヒ飲料株式会社によるものである。

なお、カタパルト株式会社は、アサヒ飲料株式会社からの依頼が終了した後も、継続して本校の教育活動を支援してくれている。

d 地域防災に係る講演（令和2年1月9日実施）

1月にも山北町生涯学習センターをお借りして講演会を実施した。使用料の減免については前年7月同様である。また、総務防災課から職員を講師として派遣していただいた。

イ その他

a 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部（令和元年12月13日協定締結）

本校生徒の変容を観測するための生徒対象のアンケートについて、質問紙の作成から集計・分析まで助言・助力くださっている。

第三者的立場から、山北町観光協会会長と山北町教育委員会教育長に対し、本校の取組に係るインタビューを実施し、その様子を本校に提供してくれている。このインタビューは、今後も継続するとのことである。

b 有限会社小田原ドライビングスクール（令和元年11月25日協定締結）

学校設定科目「地域防災」の単元としてドローンについての学習を企画していた。この単元において、同社から講師の派遣を受けるとともに、教員も指導ができるようにするため、教員に対する基礎講座を令和元年12月に本校を会場にして開催していただいた。

c 株式会社ベネッセコーポレーション（令和2年1月10日協定締結）

サポートのために頻繁に来校し、リモート会議開催の際には、技術的なサポートをしてくださった。教員研修も企画運営してくださった。

これらのほか、様々な情報を提供して下さっており、先進校視察に当たっては、本校の活動に資するであろう学校を紹介して下さるなどしてくれた。

d 相日防災株式会社（令和2年8月17日協定締結）

本校防災訓練の際に、起震車の派遣を手配してくれるなどの便宜を図ってくれているほか、講師派遣についてもお申し出くださっている。

e 山北町都市農村交流活性化推進協議会

事務局長藤原浩氏を通じ、町内フィールドワークのコース設定に助言をくださったり、現地協力者の紹介をして下さったりしている。

f 松田ゆいスポーツクラブ（令和2年12月12日協定締結）

生徒が企画した未病に係る地域イベント開催に当たって、参加者を集めるノウハウの提供から当日のバックアップまでしてくださった。このほか、学校設定科目「未病」の講師として複数回登壇して下さっている。

g アサヒ飲料株式会社（県政策局による包括提携先）

ME-BYO コンセプトの普及・啓発を図るため事業のために、本校と関わりを持ち、その後は、カタパルト株式会社が本校の直接の支援に当たった。カタパルト株式会社は、継続して本校の授業づくりに関与してくれている。

h 山北町（平成31年2月12日に県教育委員会と協定締結）

同町生涯学習センターの利用に当たって、利用料を減免してくれている。また、日程確保にも便宜を図ってくれている。講演講師派遣や生徒による職員インタビューにも便宜を図ってくれて

いる。

学校運営協議会に、教育長、総務防災課長、同町立小学校長、同町立中学校長を派遣してくれている。このつながりから、新東名工事の見学会を実現できた。また、本事業採択以前から続いている地域の防災訓練、清掃活動、就学前教育機関との交流等が一層活性化されたうえ、従前は担当者による属人的なつながりであったものが組織化されたものがある。

## (2) コンソーシアム等についての課題

### ア 構成団体全体を巻き込むこと

各構成団体がそれぞれ本校を支援してくれている。構成団体相互のつながりを作ることを課題として捉えている。構成団体同士がつながることにより、より有効な方策が生まれる可能性と、地域の活性化そのものを期待する。

### イ コンソーシアムへの参加のお願いについて

本校への支援を申し出てくださっている企業・団体の方にご参加いただいている。これについて、本校が将来を見据えて、本校から積極的にお願いすべき企業・団体も発掘・開拓していくべきと考える。

### ウ 学習活動への関わり方について

構成団体の方々が、直接生徒を指導する機会を十分には作れていない。

有限会社小田原ドライビングスクールには、学校設定科目「地域防災」の単元としてドローンについての指導をお願いする予定であったが、COVID-19の影響もあり、実現していない。

松田ゆいスポーツクラブ代表松下氏は足繁く来校になり生徒の指導に当たってくださっている。

## (3) 今後の展望

### ア 組織について

調整役を立てることとしたい。

地域協働学習実施支援員か県教育委員会からの加配による事務補助員が適切ではないかと考えるところであるが、株式会社ベネッセコーポレーションから調整役を引き受けてもよいとの申し出を受けている。

また、コンソーシアムに加わっていただくべき企業・団体がほかに存在しないかを調査・検討する必要がある。

本年度は、コンソーシアムの調整役を立て、組織として動かしていくことを目指す。

### イ 教育課程への関わりについて

構成団体からいただける支援を教育課程に落とし込むことを検討する。

その際、「未来探究」「あしがら」以外の一般教科でも検討する。

### 3 目標設定シート

【別紙様式5】

ふりがな	かながわけんりつやまきたこうとうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	神奈川県立山北高等学校		

## 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>問題発見・解決能力</b> *指定校にて実施するアンケートにおいて、「身の回りにある課題を発見し、その解決に向け、取り組むことができますか」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						単位：パーセント
a	本事業対象生徒：		4月:43.5→2月:69.2	2月:64.9		80.0
	本事業対象生徒以外：	60.1	2月:62.7	—	—	
目標設定の考え方：「総合的な探究の時間」や学校設定科目等における地域課題の解決等の探究的な学びを通じて、課題を発見し、解決する力を習得させる。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>身近な人や地域の取組に関わり、協力することができる能力(社会性)</b> *指定校にて実施するアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						単位：パーセント
a	本事業対象生徒：		4月:50.8→2月:80.8	2月:79.4		80.0
	本事業対象生徒以外：	64.3	2月:68.2	—	—	
目標設定の考え方：本事業における取組を通じて、地元にいる身近な人々や地域の取組に関わり、積極的に協力することができる能力を習得させる。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>幅広い年齢の人々と関わり、多様な考えを尊重し、思いやることができる能力(他者性)</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						単位：パーセント
a	本事業対象生徒：		4月:25.1→2月:88.4	2月:82.4		90.0
	本事業対象生徒以外：	77.1	2月:75.1	—	—	
目標設定の考え方：本事業における取組を通じて、地元にいる幅広い年齢や様々な立場の人々に関わり、自分以外の多様な考えを尊重し、他者を思いやることができる能力を習得させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>山北町での生活を希望する生徒の割合</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						単位：パーセント
b	本事業対象生徒：		4月:14.1→2月:20.8	2月:21.1		20.0
	本事業対象生徒以外：	6.0	2月:9.7	—	—	
目標設定の考え方：本事業における取組を通じて、山北町への愛着を深め、山北町での生活を希望する生徒の割合を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>山北町に関係する就職を希望する生徒の割合</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						単位：パーセント
b	本事業対象生徒：		4月:6.8→2月:18.5	2月:20.1		20.0
	本事業対象生徒以外：	5.0	2月:10.6	—	—	
目標設定の考え方：本事業における取組を通じて、山北町の諸産業に対する関心を高め、山北町に関係する仕事や職業に就くことを希望する生徒の割合を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>山北町に貢献することを希望する生徒の割合</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						単位：パーセント
b	本事業対象生徒：		4月:49.7→2月:64.7	2月:56.8		50.0
	本事業対象生徒以外：	34.4	2月:62.7	—	—	
目標設定の考え方：本事業における取組を通じて、山北町への貢献意識を持つ生徒の割合を増加させる。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
c	本事業対象生徒：					単位：パーセント
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	<b>プロジェクト推進会議(カリキュラム開発等専門家と各教科の教科主任等で構成する会議)の開催</b>					単位:回数
		0	5	5		12
目標設定の考え方:カリキュラム・マネジメントを推進し、本プロジェクト全体の進捗状況を管理する会議として、月に1度開催する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	<b>研究授業の実施</b>					単位:回数
		0	4	0		4
目標設定の考え方:学校一斉の研究授業を年4回実施する。このうち2回を公開する。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
b	<b>成果発表会の開催</b>					単位:回数
		0	5	1		3
目標設定の考え方:毎年度末、各学年ごとに生徒が実施した探究活動の発表会を開催する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
c	<b>管理機関が設定している指標に関するアンケート調査の実施</b>					単位:回数
		1	2	1		2
目標設定の考え方:年度当初及び年度末にアンケート調査を行い、指標の達成状況を確認するとともに、次年度の改善に生かす。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	<b>地域の外部人材の参画によるフィールドワークの実施状況</b>					単位:回数×人数
		0	35	35		5×10
目標設定の考え方:年間5回程度実施予定の生徒の探究活動に係るフィールドワーク(10分野程度を想定)において、地域の外部人材の支援を受ける。						
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	<b>コンソーシアム連絡会議の開催回数</b>					単位:
		0	0	1		2
目標設定の考え方:コンソーシアム参加機関の担当者が出席する連絡会議を年度当初及び年度末に開催する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
d						単位:
目標設定の考え方:						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	590	630	628	628	600
本事業対象生徒数			199	393	600
本事業対象外生徒数			429	235	0

## 4 国立政策研究所インタビュー記録

○山北町観光協会会長 佐藤精一郎氏 インタビュー記録

I 日時：2020年12月4日 13時30分～15時

II 場所：山北町観光協会

III 聞き手：本多正人（国立教育政策研究所）

渡邊恵子（同上）

丹羽勇人（東京大学大学院工学系研究科修士課程）

IV インタビューでお話いただいた内容のポイント

（1）山北町行政あるいは山北町民にとっての山北高校の存在意義について

もともと町立の高校として始まった歴史もあり、町民は高校が山北町にあることを誇りに思っている。生徒が多く通っていることで、高校の立地している向原地区から岸地区にかけては、にぎわいも生まれている。

町長になる前から、高校と銀行の支店の存続は町にとっての重大事項だと考えてきた。

（2）山北町の人口減少対策や地方創生について

定住人口を増加させることが難しい中で、交流人口を増やすことが重要。観光もその一翼を担っている。交流人口を増加させるためには、今ある資源を活用することと、新しい資源を生み出すことの2つがポイント。この2点について、高校生の意見を聞いてみても良いと考える。高校生ぐらいになると、結構冷静に見て、斬新なことも考えられると思う。

高校生の目から見て、町の活性化のために資源をどう生かすべきか、町の将来像をどう考えるかなど、町づくりへの意見を聞いてみたら、町行政や町民にとっても刺激になるのではないかと。

（3）山北高校と山北町の連携について

高校側は、町に対して、具体的な連携について、もっといろいろ働きかけても良いと思う。町会議員との連携を深めることも良いと思うが、町行政の執行部を動かすことが大事。執行部を動かす活動につなげてくれるような議員を見つけ、連携するのも一案かもしれない。町側にやる気を起こさせるような発信を学校ができるが良い。

（4）山北高校に通う山北町外からの生徒への働きかけについて

山北町の資源を勉強してもらおうのが大事だと思う。活用を考えてもらえればもっと良いが、知るだけでも意義がある。

以上

○山北町教育長 石田浩二氏 インタビュー記録

I 日時：2020年12月17日 14時45分～16時10分

II 場所：神奈川県立山北高等学校

III 聞き手：本多正人（国立教育政策研究所）

渡邊恵子（同上）

丹羽勇人（東京大学大学院工学系研究科修士課程2年）

#### IV インタビューでお話いただいた内容のポイント

##### （1）山北町行政あるいは山北町民にとっての山北高校の存在意義について

もともと町立の高校として始まり、移転前は山北町の商店街が高校生の通学路で、我が町の高校というイメージが強かった。現在地に移転後、また、神奈川県立高校の入学が全学区制になった後、山北町や町民にとっての存在感がやや薄れていたことは否めない。それでも、山北町の総合計画や教育大綱には山北高校との連携が明記されており、町のイベントやお祭りに高校生にボランティアで参加してもらったり、避難所として防災訓練に参加してもらったりなどの連携は行われていた。

##### （2）山北町の人口減少対策や地方創生について

子育て支援や廃校活用、教育特区による通信制高校の誘致などを行っている。また、東山北駅付近に1,000人の住民増を意図した住居環境の整備も行っている。さらに、新東名高速のスマートICが清水地区に出来ることに伴うその一帯の開発などが構想されている。

##### （3）山北高校と町の教育行政との連携について

現在、0～5歳の育ちを体系的に捉える施策を進めている。次の段階は小学校、中学校ということで、0～15歳一貫教育・保育の構想を進めているところである。その次の段階としては、高校との連携教育も考えられると思う。

##### （4）文部科学省事業が山北高校と町との連携に与えた影響について

この事業を始めたことで、町が山北高校との協働の考えを改めて意識し始めたと思う。12月議会で山北高校などの町と関係する資源をもっと活用したら良いのではないかと、といった山北高校に関連する質問が出た。これは教育長在職7年半で初めてのことで、町役場も、山北高校との窓口課を決め、山北高校からその窓口課に連絡をもらえば庁内の連絡調整ができる体制ができた。次の段階としては、町の課題意識を高校生が考え提言してもらうことが重要だと考え、新東名高速のスマートICの建設中の現場を高校生に見学してもらう機会を設けた（その後、2021年1月からの新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う神奈川県における緊急事態宣言の発令に伴い、中止）。一歩ずつ、着実に連携が深まっていると思う。

以上



# 山高

足柄上郡山北町向原2370  
神奈川県立山北高等学校

TEL 0465-75-0828

令和2年10月

Vol.1

山北高校HP



## 山北高校創立80周年に向けて

今年はいままで想像もしていなかった年となりました。新型コロナウイルスへの対応には、生徒の皆さん、保護者の皆様、そしてそれを支えてくれた地域の皆さんや関係団体の皆さんのご協力があったことができました。本当にありがとうございました。まだまだ感染は収まり切れず、第3波の心配はありますが、まずはここまでのお礼を申し上げます。

さて、1942年に町立の女学校としてスタートした山北高等学校。2022年には開校80周年目を迎える歴史と伝統のある学校です。現在、全校生徒約640人が在籍し、毎日「着実に努力」を積み重ね、生き活きと学校生活を送っています。

校長 藤田 正樹



現2年生の活躍が下のQRコードからご覧いただけます！



## 探究活動(SDGs)について

山北高校では、「すべての人に健康と福祉を」を軸に「未病」、住み続けられるまちづくりを軸に「地域防災」として探究活動に取り組んでいます。

### 【山北高校が受けている指定】

#### ①文部科学省指定

「**地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】**」

(令和元年～令和3年度)

※全国20校のうちの1校として指定

#### ②神奈川県教育委員会指定

教育課程研究開発校(「総合的な探究の時間」に係る研究・SDGs(持続可能な開発目標)をテーマとした展開に係る研究)

これらの指定への取組みは、山北町を始め、国立教育政策研究所等様々な機関・団体が注目し、バックアップしてくれています。学習効果が上がったかどうかなども、専門家が分析し、本校の教育課程や指導体制の見直し・改善を図っています。

本紙は学校HPから見れます！

## 【新着情報・お知らせ】

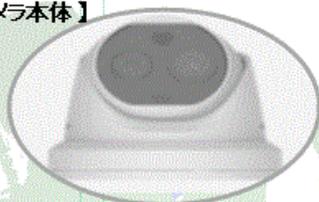
### ～サーマルカメラの導入～

令和2年9月9日(水)サーマルカメラを導入しました。

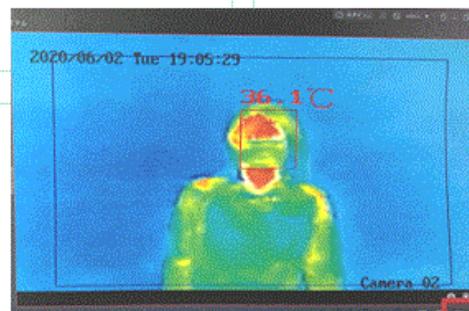
#### サーマルカメラとは

表面温度を確認できるもので、カメラの前を通ると右画像のように非接触での体温チェックが可能となります。

#### 【導入したカメラ本体】



#### 【モニタリング中の様子】



今後、学校行事や、昇降口などでの定点観察、部活動などで来校する教員や生徒などの体温チェックをスムーズに行うことができます。

### ～新型コロナウイルス対応～

6月8日より夏休み中も毎日、健康観察表に記録をして、発熱や風邪などの症状がある場合には、登校しないように指導しています。また、各クラスに消毒アルコール配布、トイレや階段、教室のアルコール消毒を、教師主導で生徒と協力して、感染の対策をしています。

#### 【アルコール消毒中の職員】



YAMAKITA HIGH SCHOOL Since 1942

### 第1回 部活動の紹介【弓道部】



毎年、関東大会等で輝かしい功績を残す弓道部。今シーズンは、コロナの影響で大会がすべて中止となっています。その代替大会として、9月6日(日)神奈川県の子3年生部員を対象とした大会が行われ、3年生が女子個人で6位、7位の成績を収め、有終の美を飾りました。

#### 10月 校外活動

- 10月15日(木) 地域貢献デー (13時30分～15時)  
1学年が学校周辺地域の清掃活動を行います。
- 10月23日(金) 1学年フィールドワーク (9時～15時)  
河村城趾や洒水の滝周辺で探究活動を行います。

回覧



学校だより Vol.2

令和2年11月

# 山 高

足柄上郡山北町向原2370  
神奈川県立山北高等学校  
連携推進室

TEL 0465-75-0828 山北高校HP  
TEL 0465-58-0001



山北高校の紹介動画ができました

123,456,789回再生・2020/10/01



山北高等学校

チャンネル登録者数 300万人

ぜひご覧下さい

学校紹介動画が、動画投稿サイト「youtube」に掲載されました！  
インターネットで「山北高校 紹介動画」と検索していただくだけでご覧いただけます。  
URLはこちら→<https://www.youtube.com/watch?v=DxYlkeqfCdA>

## スケアードストレイトの実施

10月9日にスケアードストレイトが校内で行われました。自転車での事故体験をスタントマンが実際に行ってくれる体験教室で、1学年の約200名の生徒が参加しました。スタントマンの迫力ある演技で、実際事故が起きてしまう様子を見ることができ、貴重な体験ができたと思います。



### スケアードストレイトとは



事故現場を再現して、  
交通事故を未然に防ぐ活動

本紙は学校HPから見れます♪

## 【新着情報・お知らせ】

### 1年生の活動

10月16日(金)地域貢献デーとして、1学年が東山北駅や学校周辺の清掃活動に取り組みました。ゴミよりも落ち葉の方が多く、秋を感じた清掃活動でした。今後もきれいな街になるように、美化活動を続けていきたいと思えます。

地域の皆様、山北町役場の皆様、ご協力ありがとうございました。



### 2年生の活動

10月15日(木)山北町役場、幼稚園、介護施設等をグループで訪問し、コロナ拡大後の生活様式についてインタビューを行いました。「イベントの開催」や「リモート勤務による視力低下」「介護施設での面会」「環境保全」など、前もって生徒がつくった課題について回答をいただき、ありがとうございました。貴重な意見は、これからの未病への普及に役立たせます。



### 山北町会議員来校

10月8日(木)、町会議員6名の方が学校訪問で来校されました。当日は、文科省から指定を受けている地域創生に向けての意見交換を行いました。その後、1学年、2学年の各教室の生徒の発表を参観されました。

ご訪問くださりましてありがとうございました。

### 第2回学校説明会

10月3日(土)に今年度2回目の学校説明会を行いました。今回は、約200人の中学生・保護者の方々にご来校いただきました。多数の方にご参加いただきありがとうございました。新型コロナウイルス感染対策に配慮して、当日の様子はインターネットでの配信を予定しています。

### 部活動の紹介【陸上部】

今年は新型コロナウイルスの影響で3年生の代替え試合から始まりました。

9月に行われた新人大会では、競歩で県大会7位、冬季競技大会では、2年生女子小川さんが1500m・3000mで2冠と成績を収めています。11月には丹沢湖で神奈川県高校駅伝大会が行われます。ぜひ、応援をよろしくお願いいたします。



### 11月の行事予定

- 11月6日(金) エアロビクス講習会(生徒のみ)
- 11月12日(木) 2学年フィールドワーク  
(10時40分～15時)  
山北町役場、丹沢湖、洒水の滝等
- 11月14日(土) 第3回学校説明会(9時～12時)

次号は、12月広報やまきた掲載予定です。

## 山北高等学校★フィールドワーク

令和2年10月23日(金)1年生196名の生徒が、「山北町を知る」をテーマに探究活動を行いました。

※ 探究活動の取り組み

「すべての人に健康と福祉を」を軸に <未病>  
「住み続けられるまちづくりを」を軸に <地域防災>

ご指導してくださった皆様、  
温かく見守っていただいた地域の  
皆様有難うございました。

※ 地域を教材とした課題解決型学習を行っています。

1年生「知る」

→ 山北町を知って課題の発見

2年生「探る」

→ 実現可能な地域おこしプロジェクトの  
提案、解決策の提案

3年生「実践する」

→ 改善策の検討・政策提言

※詳しくは山北高校HPをご覧ください。



農業体験 柚子狩り  
(洒水の滝近隣農園)



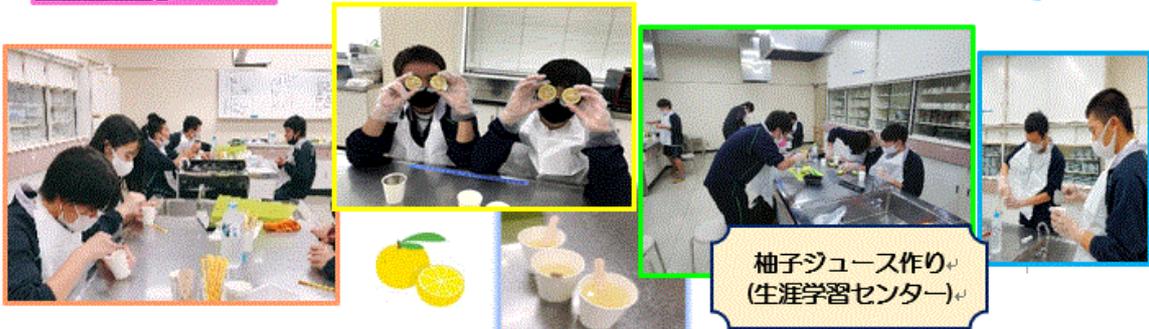
森林セラピーロード  
(河村城跡コース)



竹弓鉄砲作り  
(生涯学習センター)



竹ぼっくり作り  
(生涯学習センター)



柚子ジュース作り  
(生涯学習センター)